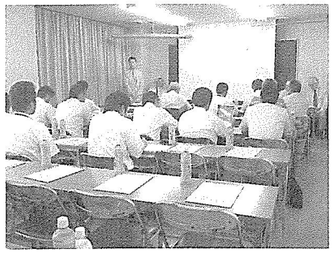
離乳期からのリキッド給餌が有効――ダイヤリキッドフィーディングセミナー

7月31日、栃木県教育会館（栃木県宇都宮市）にて㈱ダイヤ主催のリキッドフィーディングセミナーが開催された。今回のセミナーは、イギリスのリキッドフィーディングシステムメーカーであるハンプシャー社社長のスティーブ・ストック氏来日に合わせて、少人数を対象に行われたもの。会場には約20名が訪れた。

ストック氏は「人間がシリアルを食べるときミルクに浸したほうが食べやすいのと同じで、豚もリキッド飼料のほうが食べやすい」と述べ、水3に対して飼料1の割合でのリキッドフィーディングが最も豚の生理に適していると説明。給餌器以外にもピッカーなどによる飲み水を確保することが重要であるとした。

また、リキッドフィーディングはバイプロに限らず、配合飼料でも高い効果が得られるとも語り、飼料効率の改善例やコストパフォーマンスの良さなどをアピールした。


リキッドフィーディングに興味のある生産者、メーカーが集まった

導入ステージは、日本では肥育段階からが多いなか、ストック氏は離乳後すぐからのリキッド給餌を推奨。その根拠として吸収効率に関わる小腸の柔毛の長さを挙げ、肥育期からでは柔毛が十分に発達しないことを示した。

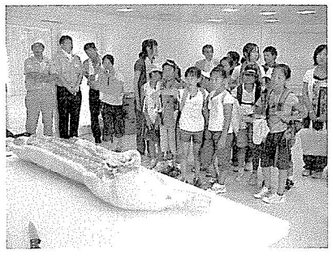
続いて、田口尚二氏（㈱ダイヤ）が国内導入農場の例を紹介し、ハンプシャー社のリキッドフィーディングのシステムについて詳しく説明した。田口氏は、メンテナンスが簡単であることや、パソコンによる一元化した給餌管理が可能であること、飼槽単位で無段階給餌管理ができるため、豚にも人にも負担が少ないフェーズフィーディングを実施できることをメリットとして挙げた。

また、会場からの「リキッドフィーディングにすると、尿量が増えるのではないか」という質問には、田口氏が「リキッド飼料の場合は、豚の飲みこぼしが大幅に改善されるので、汚水の総量としてはそれほど問題がない。ただし、ふん便が水っぽくなるために、コンポスト処理の負担は大きくなるのでは」と回答した。また内臓重量については、「ドライ飼料のときよりも若干軽くなるというデータも出ており、そのためある農場では枝肉歩留まりが大きく改善されている」と説明した。

多摩地区の恵みを子どもたちに――Tokyo X Association

8月7、8日、(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩は、国営昭和記念公園緑の文化センター（東京都立川市）にて食育イベント、第5回体験型環境教育プロジェクト「それいけ！　たまレンジャー！！」を開催した。

同ネットワークは、大学を核とする産官学の連携組織で、多摩地域の活性化のための事業を行うことを目的としている。本プロジェクトは、その一貫として多摩地区の小学3、4年生を対象に、環境の重要性をさまざまな体験を通じて知ってもらおうというもの。中央大学の細野助博氏（同ネットワーク理事）がプロジェクトを担当し、これまで河川やゴミ問題などを取り上げてきたが、今回は「おいしいごはんの舞台ウラ」と食育をテーマに開催された。


初めて見る枝肉に目を丸くする子どもたち

Tokyo X Associationは本プロジェクトに協力し、枝肉半丸を無償にて提供。8日にはTokyo X Association会長の植村光一郎氏が集まった子供たちに向けてTokyo Xの特色などを解説したうえで、「食べることとは、命をいただくということ。豚でも穀物などの植物でもそれは同じ。肉や米から、私たちは生きるパワーや元気をもらっている。動植物から分けてもらった命である食べ物を大切にしてほしい」というメッセージを送った。

その後、調理室にて枝肉の脱骨・解体からスライス、カットまで行い、子供たちに部位などについて説明した。初めて見る大きな豚の枝肉におっかなびっくりという様子だった子どもたちも、手際よく解体されていく様子に見入っていた。

スライスされた肉は、ボランティアとして参加している大学生たちの手によって、焼そばの具へと変身。この焼そばについては、野菜も地元のJAみどりから提供されたものであり、またソースも同じ多摩地区であるあきる野市の近藤醸造㈱より提供されたもので、多摩の恵みを結集したものとなった。子供たちも、焼そばづくりでは、慣れない包丁を使って、おっかなびっくりながら野菜を切るなど、「つくる」作業にも参加した。

前出の細野氏は、「多摩の財産はなんと言っても環境の良さ。ただ、住んでいる人間には当たり前になってしまって、改めて見直す機会がない。子供たちの目を通じて、大人に環境を大切にするというメッセージを伝えていくことも、本プロジェクトの重要な役割だと考えている」と語った。

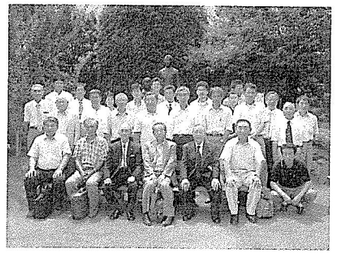
また植村氏は本プロジェクトについて、「たくさんの大学生のボランティアが、非常に熱心に活動していて、感心した。食育というテーマは、Tokyo Xの理念の1つであるアニマルウェルフェアにも通じるもの。これをきっかけに、命と食について考えるきっかけになれば」と参加した感想を述べた。

肉の販売、直売所経営を学ぶ――埼牧心友会

7月26日、㈱埼玉種畜牧場（サイボク）において、埼牧心友会の総会、講演会が開催された。総会では、平成19年度の活動や、平成20年度の活動案などが報告され、集まった会員によって、予算などが承認された。

また、総会では来年度が埼牧心友会の40周年に当たるため、行事を行うことを提案。「何か記念に残るようなイベントを」ということで、広く告知して大きなイベントを開催することが提案された。

また、今回の講演会では、サイボク卒業生でもある石川安俊氏（㈲石川養豚場）が、直売所の経営に関して講演を行った。石川氏は、数値を具体的に挙げ、農場での成績から直売所の売り上げまで、どのような収支になっているかを説明。最初のうちはなかなか軌道に乗らず、眠れない日が続いたことなど、苦労についても語った。直売所を始める以前から、相対取引など、販売に力を入れてきた石川氏いわく「肉を売るには、枝で扱ってくれるところでないと難しい。細かくすればするほど、儲けは少なくなる」とのことであった。


サイボクOBが一同に会した

また、「現状に甘んじず、自分の商品を磨くことが大事」として、楽をせず、常に上を目指していくことの重要性を語った。

最後に、名誉会長の笹崎龍雄氏が講演を行い、サイボクの歩んできた道とこれからについて語った。

総会終了後は、サイボクレストランにて昼食会を行い、おいしい豚肉に舌鼓を打ちながら、互いに旧交をあたためていた。

抗生物質より天然物　シンバイオティクスで豚ヘルシー！
下痢の対策と、飼料効率の向上が期待できます
名糖ヘルシーフレンド-S（MHF-S）
［シンバイオティクス混合飼料］
名糖ヘルシーフレンド（MHF）
胃液で分解されずに腸まで届く
デキストランオリゴ糖を含む
プレバイオティクス混合飼料
名糖ラクトカゼイ（MLC）
多くの乳酸菌の中から選ばれた
MHFと相性の良い
プロバイオティクス乳酸菌
MHF・MLCは単独でもお求めいただけます
（お問合せ）名糖産業株式会社 化成品営業部　TEL 042-330-1721／FAX 042-330-1725